

桑野塾

桑野塾

検索

<http://deracine.foo.jp/kuwanojuku/>

大学などの研究者に限らず、興味を持って研究していることを自由に発表しあう「広場」です。
どなたでもご参加いただけます。
それぞれの興味が少しずつ重なり合うことで、新たな知見を見いだそうという場です。

第26回

2014年
10月11日(土)
15:00 ~ 18:00

早稲田大学 早稲田キャンパス16号館 820号室

★どなたでもご参加いただけます。会場に直接お越しください。参加無料

☆終了後、近くの居酒屋で懇親会を開催します。(飲食費は別途)

※予約の都合上、懇親会参加をご希望の方はなるべく事前にご連絡いただくと助かります。

※報告者・タイトルは変更の可能性もあります。ご了承ください。



MEMOIR 『チェマダン』からのメッセージ

チェマダン
気鋭の研究者が“トランク”に詰め込んだ
旧ソ連圏、東欧諸国の芸術・文化のいま!

※チェマダン(ЧЕМОДАН): ロシア語でトランク・スーツケースの意
雑誌『チェマダン』についての詳細は <http://chemodan.jp/blog/> を参照



チェマダン第4号



オリガ・クロイトル[無題]

アンドレイ・クスキン[円に沿って]

『チェマダン』からのご挨拶

報告者: 八木 君人

伊藤愉、河村彩、八木君人の三名は、ロシアを中心に、旧ソ連圏、東欧諸国の現在の芸術・文化を紹介すべくPDF雑誌『チェマダン』(<http://chemodan.jp>)を立ち上げました。毎号、編集部の特選と偏見で「この人なら面白い記事を書いてくれそうだな」と思われる、今、活躍している若手研究者を中心に原稿を依頼し、10本程度の記事を掲載しています。とはいえ、創刊準備号の発行が2013年3月4日で、今回の桑野塾が開催される頃には最新号の第5号が出るくらい、まだまだ「若い」雑誌です。この雑誌が想定している読者は、実は、「ロシアや旧ソ連圏、東欧諸国」といつか「東側」と呼ばれたある特定の地域に愛着がある人というよりは、むしろ、そういう枠組みとは無関係に、広く現在のアートや文化全般に関心を持っている人です。

『チェマダン』を契機として、それら地域の現在の文化が、日本語話者にとってより近いものとなり、現代の日本のアートシーンや文化活動に対して、少しでも何か刺激を与えられればと思いつきながら、われわれはこの「雑誌」を立ち上げました。今回の桑野塾では、こうした『チェマダン』のコンセプト、これまでの記事の内容、雑誌以外の活動等を紹介し、もし時間が許せば、『チェマダン』最新号の記事から一つをとりあげ、その内容について少し掘り下げて説明したいと思います。

●八木君人(やぎ なおと):

早稲田大学文学学術院専任講師。ロシア・フォルマリズム、ロシア・アヴァンギャルド、ロシア散文史が専門。『チェマダン』編集委員。

現代ロシアのパフォーマンス・アート

報告者: 伊藤 愉

近年ロシアでは、「パフォーマンス」が注目を集めています。今年(2014年)10月17日から12月5日には、現代文化センター「ガラージュ(ГАРАЖ)」で、「ロシアにおけるパフォーマンス: 歴史の製図」が企画され、ロシアのパフォーマンス・アートを考察し直す試みがなされています。この展覧会に先立って、ガラージュは2010年より定期的にパフォーマンス関連の展示、レクチャー、国際カンファレンス等を企画してきました。こうした一連の企画展に合わせて、ガラージュは2014年初頭にローズリー・ゴールドバーグ著『パフォーマンス——未来派から現代まで』の露訳版を出版しています。

ガラージュは、これまでの企画展においてロシア語の「перформанс(パフォーマンス)」を西洋の文脈といかに接続させるか、ということを意識してきました。対置されるロシアの文脈というのは、ゴールドバーグが著書の中でも触れているロシア未来主義を中心としたロシア・アヴァンギャルドの活動であり、また70年代の集団行為やグネズド(巢)によるソツツ・アートといった非公式芸術等であり、ロシア独自の西洋とは断絶した(と彼らが考える)文脈での豊かなパフォーマンスの実践でした。今回の発表では、こうしたガラージュの活動を簡単に振り返りつつ、現代ロシアでどのようなパフォーマンス・アートが実践されているか、を報告します。

●伊藤愉(いとう まさる):

一橋大学大学院博士課程。ロシア国立演劇大学(GITIS)に3年間留学。ロシア演劇史が専門。『チェマダン』編集委員。

●問合せ・申込み: 大島幹雄(おおしま・みきお) E-mail: izj00257@nifty.com / 電話: 090-2207-8185